

果樹園だより

徳島県立池田高等学校三好校



＊＊モモの摘果と袋掛け＊＊

三好校では全国的にも珍しいモモの棚栽培をしています。摘果というのは実ができ始めたころに、果実として育てていく実を選び、それ以外を摘んでいくことです。この作業をすることで残った実に栄養がゆきわたり、実が大きく、また高品質に育っていきます。

摘果が終わってから実に袋掛けをします。これは自然の影響によって実が傷つくことを防ぐために行います。最後に樹の根元に肥料をまいて終わりました。



＊＊ブドウのジベレリン処理＊＊

皆さんが食べているブドウには種がありますか。三好校の果樹園では種なしブドウを生産しています。ブドウを種なしにするために必要なのがジベレリン処理というものです。

ジベレリンという植物成長調整剤にブドウの房をつける作業ですが、まず、房の根元の方の実を切り、そのあとひと房ずつ丁寧にジベレリン溶液つけていきます。そのあと、房を少し揺らして、余分についたジベレリンの液体を落としていきます。

ジベレリン処理は2回行います。今回は1回目、中間テストの初日の放課後に行いました。テスト中でも作物は成長していきます。作物の成長に合わせた作業ですから、テスト中といえども農場に足を運ばないといけません。



＊＊ウメの収穫＊＊

ウメの収穫を行ったのは、放課後に当番実習で来た1年生です。初めての体験でしたが、臆することなく、次から次へと収穫していきました。高い場所にあるウメは、脚立を使って、手際よく取っていました。

＊＊ウメの選果、ヘタ取り＊＊

1年生が収穫したウメは、別の日に2年生が選果して、ヘタを取りました。この日は中間テストでしたが、ウメは学校の予定には合わせてくれません。早くしないとウメが痛んで出荷ができなくなります。

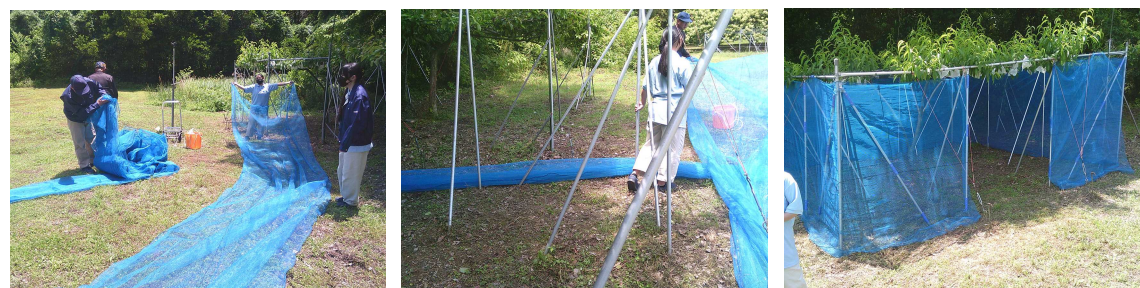
この日の収穫で出荷したウメは7kgありました。袋詰めにして、近くの販売所に持っていきました。うれしいことにすぐに売り切れになったそうです。



＊＊モモ棚のネット張り＊＊

先日袋掛けしたモモもだいぶ実が大きくなってきました。この日はモモ棚（モモ園）のネット張りをしました。ネットを広げ、支柱にネットを張っていく作業ですが、ネットがたるまないように、下に隙間ができないように慎重に作業を進めていきます。

ネット張りの目的は小動物から実を守るためです。ネットが張られたモモ棚に生徒たちはみんな満足していました。



＊＊ナシの袋掛け＊＊

三好校の果樹園では幸水・豊水という2つの品種のナシを栽培しています。この日、袋掛けを行うのは幸水という品種で、豊水の袋掛けは幸水の袋掛けが終わってから行います。3年生は昨年にも袋掛けを経験しているので、その感覚を思い出し、次々と袋掛けを行いました。

幸水は8月上旬に収穫し、9日前後に販売予定。豊水は8月下旬から収穫してから販売を行います。

